

# KITAKEI-Report

No.144  
August2021

発行：北恵株式会社 〒541-0054 大阪府中央区南本町3-6-14 TEL.06-6251-6701  
http://www.kitakei.jp/

## みんなが快適に暮らすことが脱炭素社会実現に向けた第一歩!

脱炭素社会の実現に向け、官民によるまさに「挙国一致の体制」が求められる昨今、住宅分野に対してもより一層の省エネ化推進の声は強まるばかりだ。改めて我が国では2050年にカーボンニュートラルを達成し、これ以上の地球温暖化を阻止するという大目標が存在している。これを成し遂げるため、住宅分野においては住まい手、作り手、住宅機器メーカー各自が同問題を「自分に係る問題」として捉え、ともに手を携えた上でより環境にやさしい暮らしを希求していかなければならない。

特に住宅に関連する分野はストックとして長く残るもの。仮に現時点で省エネ性能の低い住まいを新築した場合、それこそ「長期不良住宅」として数世代にわたり負の影響を及ぼしてしまうことになる。当然のことながら、このようなストックが多数を占めれば、「脱炭素社会の到来」など、絵に描いた餅になってしまう。

さて、躯体側での対策と同様に省エネ化に向けた取り組みとして重要なのが家電製品、給湯器などにおける最新の住宅設備機器の導入だ。こうした設備機器は消費者から寄せられた声を開発に反映した上で毎年新商品を発表することから、年度が新しくなればなるほど、基本的には省エネや節水などの性能が進化していく。住まい手目線で見た場合、これは光熱費や水道代の削減につながるメリットとなる。特にコロナウイルス感染症対策としてテレワークが増えたこともあり、これまで以上に自宅で長く過ごす人が増えたことから、こうした住まいのランニングコストを低く抑える最新設備機器の導入は理にかなった選択といえる。

もちろん、省エネ性能に劣る旧製品について「まだ壊れていないのにもったいない。廃棄するのはエコではない」と考えるお施主様も一定数いらっしゃる

ことだろう。しかし、補償期間を超えて長期使用したことで、設備の建材や部材などのストックがなくなってしまう、かえって工事費用が高額になってしまったという事例は数多く存在する。

それよりも既存設備が壊れる前に省エネ性能に優れた最新設備を導入することが、お施主様にとって快適で、なおかつ脱炭素社会の実現に近づくための秘訣となる。現在の最新設備機器は時代とともに「スタイリッシュで直感的なインターフェース」やタッチパネルを搭載したものが登場し、使いやすさやデザイン性の向上が日進月歩で進歩している。こうした機器の存在は日常にアクセントと彩りを与えるものとなる。それに本当にもったいないことなのは、既存設備にこだわることで、世界で一番落ち着けて自分らしくいられる場所であるはずの自宅で快適にくつろぐ時間を過ごせないことではないだろうか。

現在、政府は2030年までに温室効果ガスを2013年比で46%削減するという目標を示している。残り9年でこれらを達成することは現時点で容易でないことは間違いない。とはいえ、今更日本全国で殖産興業以前の生活に戻り、蟬燭に火をともしような生活を送ることは到底不可能だ。何もこのような近代以前の生活を我慢して暮らさなくても、おしゃれで洗練された、ワクワクする最新設備機器を導入すれば、カーボンニュートラル達成に向けた第一歩が踏み出せるのだ。脱炭素社会の実現にむけた取り組みは、全て住まい手の快適な生活を第一に考えたものでなければならない。以上のことから、新設備導入



●テレワークが増えた昨今、住まいの快適さを求める声はより高まっている

を工務店はお勧めしていただきたい。

その際、お施主様から設備機器の変え時はいつごろが適切か、という質問があるかもしれない。「基本的には壊れる前で変えたいと思った時」というのが答えといえる。現在、国土交通省がグリーン住宅ポイント制度を運用しており、リフォームでエコ住宅設備を設置する場合、一部ポイントを発行しているため、今はお勧めしやすい時期ともいえる。具体的には「節水型トイレ」で1万6000ポイント/台、「高断熱浴槽」と「高効率給湯機」で2万4000ポイン

ト/戸、「節湯水栓」で4000ポイント/台となっている。こうした助成制度をうまく活用することが重要だ。

また既存の住宅で最新設備機器を導入する際は、地方公共団体による独自の支援が存在する場合があります。こうした支援制度は（一社）住宅リフォーム推進協議会のホームページで検索することができる。令和3年度版の支援制度については7月中の公開を予定しているので、工務店は同サイトをチェックした上で、お施主様に提案するのもよいだろう。

## SIAAマークで安心安全をPRしよう

フローリングはデザイン、樹種、単板・複合、機能、価格などの面で、多種多様な製品が世に出回っている。例えばデザイン一つとっても様々な色・柄が存在する。近年はプリント技術が発展したことで「木質フローリングでありながらも石質調の柄」という前衛的な意匠を持つ物もラインナップされており、斬新で革新性に溢れた製品展開には目を見張らされるばかりだ。

室内空間は、まず床面を基本に構築していくイメージが固まり、その後のコーディネートにつながる。そのため、住まい手にとって床材選びは重要な分野であり、大きな悩みどころだ。一方でお施主様に多種多様な床材の中から気に入った製品を選んでいただくと、思いのほか時間がかかってしまうことが多い。

こうした中、お施主様に提案したいのがフローリングの抗菌・防カビ・抗ウイルスといった性能だ。感染症などの蔓延防止に世間の注目が高まっている昨今、少しでも住まいを清潔にしたいというお施主様の思いは強いだろう。

特に床は飛沫などが落ちて定着するところ。日々、丁寧に掃除をしているつもりでも、気づかぬうちに様々な菌を媒介する温床となりかねない。その床の上を免疫システムが未発達な乳幼児が這うことで、これらの菌が体に付着し、体調を崩したら――。このような事態は避けたいところだ。

近年は時代の要請を受けた形で、メーカー各社から抗菌仕様・防カビ仕様などの効能を付与した製品が数多く発売されている。中でも抗菌・防カビ・抗ウイルスに関する一定の基準をクリアした製品に対し認証を行っている抗菌製品技術協議会のSIAAマークは、その性能を保証する上で一定の目安となる。



SIAA マークとは（一社）抗菌製品技術協議会が制定したシンボルマークで、抗菌、防カビ、抗ウイルスのマークが存在する。例えば抗菌マークの場合、①抗菌性、②安全性、③適切な表示——という3つの基準をクリアした製品が表示可能だ。このうち①の抗菌性は、国際標準ISO22196に準じて行われた試験の結果にもとづいて判定。抗菌加工されていない製品の表面と比較し、細菌の増殖割合が百分の一以下で、耐久性試験後も抗菌効果が確認されることが求められる。

なお、抗菌とは製品の表面における細菌の増殖を抑制する機能のことで、菌を死滅させる「殺菌」や、ある物質、または限られた空間から微生物を除去する「除菌」とは似て非なるものだ。細菌による人間への悪影響は、その菌が一定量を超えて大量に増殖した場合に発生することが多いとされるが、抗菌加工製品は表面の細菌の増殖を抑制することで、人体の常在菌や自然界の微生物に影響をなるべく及ぼすことがないよう配慮された安心なものといえる。

お施主様がフローリング選びで迷ったら、上記のマークなどを参考にお勧めするとよいだろう。

## 連載：木造住宅の歩み（第8回）

さて、ここまでの連載では「近代木造住宅の構造に大きな影響を与えた建材」として「キノパッキン」と「剛床」の2つを取り上げた他、法律により義務となった柱頭柱脚接合金物について述べてきました。改めて木造住宅の構造に関連する建材として「次に何が来るか？」を探るヒントがこれらの製品の中に隠されていると思うのです。勿論そんなことが簡単にわかれば誰も新商品開発に苦勞はしない訳ですが、そこは「温故知新」という言葉もあります。これは「過去にあった事柄から学び、そうして得られた知見を活かして新たな知識を得る」という意味の諺ですが、木造住宅のスタンダードと成り得たこれらの建材に共通するものは何でしょうか？

当然のことながら第一に家の為になるものでなければならぬという点が挙げられます。家の為とは「構造強度が上がる又は劣化防止に役立つ」という事です。また、家の為に良いものは住まい手の方にも良いという事になります。

第二に施工者側にも利点が無ければならぬという点です。これは価格面の事を言っているのではなく、施工者側にとって作業性が良く、施工安全性が高まるなどの利点が無ければならぬという事です。

第三にその商品の性能に見合った、流通価格であるという事。いくら良いものでも価格が高ければ普及はしません。

つまり施主よし、施工者よし、家にもよし、価格よしである必要があります。これに加えて改善要求の高い部分に対しての建材を開発できれば、ヒット間違いなしなのですが、現在の木造住宅の構造部分に関してそのような余地は残されているのでしょうか？

ちょっと考えてみると

①柱頭柱脚の接合金物義務化により金物設置に時間が掛かるようになりました。殆どがビスで止める仕様になっていると思いますが、ビスを留める回数は1棟の戸建て住宅で1000回程度にもなると思います。もっと簡単に接合部分の強度を上げる方法は無いのでしょうか？

②構造材に使える人口木材が開発されれば、防腐防蟻も必要なく、強度も安定、ウッドショックも関係なくなります。こうした建材は開発できないのでしょうか？

③今や木造住宅でもベタ基礎が一般的となり、布基

礎を見る事は殆ど無くなりましたが、基礎業者の高齢化が進んでいると聞きます。基礎の強度を損ねることなく、作業手間を減らし効率的に作る事は出来ないのでしょうか？

④木造住宅でも免震は可能ですが、ウン百万程度掛かります。制震部材を採用したいけど、制振部材の効果を定量的に比較できないのでしょうか？基準が無いので、どの商材が良いのか判断できないという声も聞かれます。

⑤地震は本震よりもはるかに多くの余震が来ます。2016年の熊本地震では発生から3カ月の間に震度3が378回、震度4が109回の余震が発生したとされています。このように繰り返しおとずれる揺れに対し、初期の耐力を維持できる耐力壁はできないのでしょうか？

——ざっと上記のようなことが思いつきました。このほかにも様々な課題や問題点があるのでしょうか、ひとまずこれら5つの課題について考えてみると

①に関しては金物工法を採用するという手もありますが、価格面でなかなか折り合いがつかず、一般住宅において同工法がスタンダードとなるレベルにまでは至っていません。

②についても、代替材となるような物は作れるようですが、価格が高すぎるようです。低炭素が叫ばれる現在、炭素を内部に固定した木材活用を推進するべきなのでしょう。

③に関しては、作業手間を減らす事が可能な工法はあるのですが、やはり価格面で折り合いがつかない事が多いようです。

④については行政で制震の統一基準を作ってもらうしかないのではと思います。

⑤の筋交い耐力壁については接合部分が強化されました。面材耐力壁については繰り返しの揺れに強い建材もありますが、現時点では決定打は無いように思います。

どれも各建材メーカーさんが開発に力を入れておられますが、木造住宅の構造スタンダードには至っていません。個人的には⑤の繰り返し揺れに強い耐力壁がこれの中では有望だと思っているのですが、これについてはまた次回触れたいと思います。

〔つづく〕 北恵レポート担当〇

キタケイの提供する2つのプライベートブランド  
環境・ぬくもり・素材をテーマとした各種住宅資材 “ スプロートユニバーサル ”  
天然木にこだわったフローリングや壁材 “ リラクシングウッド ”  
企画・製造から販売までトータルにプロデュース、心からご満足いただける住まいづくりを  
バックアップします。



[www. sprout-univ. com](http://www.sprout-univ.com)

<p><b>環境</b> SPROUT UNIVERSAL BLUE こちよい住環境</p>	<p><b>ぬくもり</b> SPROUT UNIVERSAL ORANGE 住まう人のために</p>	<p><b>素材</b> SPROUT UNIVERSAL GREEN 永く使ってほしいから</p>



[www. relaxssingwood. com](http://www.relaxssingwood.com)

リラクシングウッド 無垢フローリング シリーズ

